

買い物ゲーム —沖繩から広がる環境教育プログラム—

沖繩リサイクル運動市民の会 事務局長 ふくおか ともこ 福岡 智子

■ 沖繩リサイクル運動市民の会とは？

私たち沖繩リサイクル運動市民の会は、「物を大切にするとところから、心の豊かさを取り戻そう」の呼びかけのもと、1983年に設立された団体です。フリーマーケットなどの啓発イベント、シンポジウムやワークショップの開催、循環型社会システムの構築プロジェクトなど、30年にわたって活動してきました。2000年には当会を母体にNPO法人エコ・ビジョン沖繩も設立されています。

■ 環境教育プログラム

「買い物ゲーム」の開発

「買い物ゲーム」は、私たちが市民活動で培ったノウハウを基に開発した、ごみ減量啓発のための環境教育プログラムです。私達はこれまでさまざまな啓発活動を行ってきましたが、便利で手軽な生活に慣れてしまった大人の生活スタイルを変えることは容易ではありません。「買い物ゲーム」は、未来の担い手である子どもたち一人ひとりが、できることに気づき、暮らしの中で実行していけるようにと考えて開発したものです。これまでの実施回数は600回、体験者数は2万5千人を越え、現在はマレーシアなどの途上国へ赴いて指導者の養成も行っています。

■ ゲームを通して体感

「買い物ゲーム」は、スタッフが小学校へ出向き、クラスごとに出前授業を行います。ファシリテーターはスーパーの店員になりきり、教室に模擬店舗をオープンします。お店には本物そっくりに描いた肉や野菜が、トレーやラップなどさまざまな容器で包装して並べてあります。



教室に設置したスーパーで買い物をする



ごみ処理の流れと処理費に気付く

子どもたちがグループごとにカレーの材料と飲み物を買って揃えるという設定です。

「残ったお金の多いチームが勝ち」と伝え、子どもたちは安い商品を必死で探すのですが、もちろんそれだけで勝負が決まるわけではありません。実は商品のラップやトレーなど容器包装の全てに小さなシールでごみの処理費が付けてあります。子どもたちはごみを分別しながら一つひとつ数え、処理費の合計を出す作業の中で、容器包装の多さと、その処理に多くのお金がかかることに気づき、驚きます。そして、おつりから処理費を引いて残ったお金が一番多いグループが本当の優勝者。おつりが一番多かったグループが、ごみ処理費を差し引くと逆転されバリエーションになることもあります。

■ 気づきやアイデアを共有しよう

ごみの多さを実感した後は、ごみを減らすためのアイデアを考える時間です。まず一人ひとりがカードにアイデアを記入し、次に個人やグループでの発表、それを黒板に掲示し、クラス全員で共有するという流れです。「マイバッグ



ごみを減らすアイデアをクラスで共有する

を持って行く」「包装の少ないものを選ぶ」「バラ売りやはかり売りのものを買う」「シャンプーなどは詰め替え用を買う」「お菓子など小さなものを一つだけ買う時には袋を断ってテープを貼ってもらう」「肉や魚のトレーはお店に返す」などさまざまなアイデアが出ます。

「安いからといって無駄なものは買わない」など大人もハッとさせられるようなアイデアも飛び出します。「うちの冷蔵庫は賞味期限切れのものがいっぱいになっているよ」などと話してくれる子どももいて、みんなが笑ったりしますが、家族の人たちにも聞かせたい一声です。

アイデアをみんなで共有した後は、2度目の買い物があります。1度目で悔しい思いをした子どもたちは、今度こそごみを減らそうと一生懸命に知恵を絞り、どのグループも処理費やごみの数を半分以上に減らします。

■ 子どもが変われば、社会が変わる

プログラムの最後の感想には、「ごみを減らすために自分にできることはいっぱいあった」「買い物やごみが環境とつながっていることがわかった」「家族にもマイバッグを持って行こうと話したい」などさまざまな気づきが溢れています。きっと子どもたちは家へ帰ってから、気づいたことを目を輝かせながら家族に話してくれるでしょう。その「小さなファシリテーター」たちが、やがて家族や、地域を変えてゆくはず。沖縄発の環境教育プログラムが、いつか大きな風となって日本や世界を変えてくれることを、私たちは夢見ています。